

令和4年1月4日

報道機関 各位

東北大学未踏スケールデータアナリティクスセンター

未踏スケールデータアナリティクスセンターの新設

東北大学は、1月1日付けで『未踏スケールデータアナリティクスセンター』（センター長：中尾光之）を設置しました。

本センターでは、本学の様々な研究活動はもとより、東北メディカル・メガバンク計画、クライオ専用透過型電子顕微鏡、さらに青葉山キャンパス内に整備される次世代放射光施設等の大規模施設から生成されるような未踏スケールデータ¹に対し、これまでにない高度なデータ解析・分析手法を開発し、それらを分野を超えて適用し有効性を実証することで、新しい価値とイノベーションの創出を目指します。また、オープンイノベーションのエコシステムの下、学内外の研究教育活動を協働させ、それを通して、AIMD（AI・数理・データ科学）分野の若手研究者、企業技術者の育成や起業支援を行います。

今後、目的達成のため、全力で取り組んで参る所存ですので、是非、皆様のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

センターWEB サイト

<https://w3.tohoku.ac.jp/udac/>

¹ 未踏スケールデータとは
サイズ (Volume)、スピード (Velocity)、分解能 (Resolution)、多様性 (Variety) において、従来のスケールを遥かに凌駕するデータ。

【背景】

現在、内閣府の「第6期科学技術・イノベーション基本計画」において、オープンサイエンスとデータ駆動型研究教育等推進の重要性が謳われています。「AI戦略2021」においては、AI・数理・データ科学(AIMD)に関する能力を開花・発揮し、イノベーション創出に取り組むことができるエキスパート人材の育成環境を早急に整備する必要性が述べられています。

また、本学においては、東北メディカル・メガバンク計画、クライオ専用透過型電子顕微鏡などの大規模データバンクや大規模測定装置の整備が進められていることに加えて、国立大学では初めてオンキャンパスに次世代放射光施設が整備され2023年度にファーストビーム、2024年度より本格稼働を予定しております。これらの環境を求めて世界各地から研究者が往来し最先端研究が実施されるとともに、隣接する国立大学最大級のサイエンスパーク型研究開発拠点にはコアリション・コンセプトのもと多数の企業が集結することが想定され、広範な分野で従来のスケールを遥かに凌駕する「未踏スケールデータ」を対象とした価値創出に挑戦できる環境が整備されつつあります。

これら未踏スケールデータを活用し、本センターは本学で実施されているデータ駆動型研究・人材育成を推進していきます。

【問い合わせ先】

東北大学情報部情報基盤課総務係
E-mail cc-som@grp.tohoku.ac.jp